

## スポーツのチカラ まちのミライ

vol.15

2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が実現すると、私たちの街・札幌はどのような姿へと変貌を遂げるのでしょうか？  
街歩き研究家の和田哲さんにお話を伺いました。



街歩き研究家 <sup>さとる</sup> 和田 哲 さん

1972年、札幌生まれ。日本大学法学部卒業後、広告代理店や地元情報誌編集者を経て独立。古地図や古写真などから札幌の歴史をひもとき、各種メディアで発信している。著書に「古地図と歩く札幌圏」。

50年に一度の転換期を迎えている札幌  
2030年冬季オリンピック・パラリンピックを開催し  
誰もが住み良く世界に誇れる街に

取材協力：札幌市交通事業振興公社

札幌の歴史は「手が届く歴史」  
もっと街を知り、誇りに感じて

札幌市民はおしなべて、自分たちの街の歴史に関心が薄いように感じます。札幌開府から今年で153年。本州などの都市に比べて歴史が浅いと思われがちですが、その分歴史がすぐ手の届く距離にあるとも言えます。試行錯誤して街を創ってきた、実に人間くさい歴史が隠れている。うもなくすぐそばにあり、市民の誰もが見て触れて確かめることができる。これは札幌ならではの特色であり魅力です。他の都市にはないユニークな歴史があることを、市民にもっと知って欲しい。自分たちの街の歴史を大切にして、子どもたちにも誇りに感じて欲しいと思います。

冬季オリパラ開催を契機に  
新しい共生社会の基準を世界へ

今、札幌という街は大きな転換期にあります。1972年の冬季オリンピック開催や政令指定都市への移行を機に整備されたインフラは、現在老朽化による更新時期を迎えており、今後の社会変化を考慮しながら再開発を進めていく必要があります。2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致が実現すると、開催都市には世界水準のバリアフリー化を求められますが、これは私たちの長年の課題でもあります。「冬場のバリアフリー問題」を解決するチャンスにもなるはず。オリパラをきっかけに市民の関心が集まることで様々なアイデアが生まれ、世界に新しい基準を示すことができる。50年に一度のこの転換期を市民みんなで上手に利用して、札幌らしさを生かした誰にとっても快適なまちづくりを進め、都市の付加価値を高めたいと思っています。

問い合わせ先

札幌市スポーツ局招致推進部調整課 ☎011-211-3042



食や自然など多くの魅力に恵まれた  
「笑顔になれる街」さっぽろをイメージしたロゴです

問い合わせ先

札幌市総務局広報部広報課 ☎011-211-2036